

コンパニオンミーティング 7

日本サルコーマ治療研究学会

2025年4月17日(木) 18:40-20:10

G会場(展示棟 1F 会議室1)

先着30名様 弁当とお茶のサービスあり

オーガナイザー

川井章 国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科

元井亨 がん・感染症センター都立駒込病院 病理科

テーマタイトル「ANNUBP-MPNST revisited、病理と臨床の融合」

テーマ内容

悪性末梢神経鞘腫瘍(MPNST)は化学療法・放射線療法抵抗性であり、広範切除による手術が唯一治癒を目指せる治療とされているが、5年生存率は40%程度と極めて悪い。MPNSTの約半数が遺伝病である神経線維腫症1型(NF1)患者に発症し、NF1患者の生命予後短縮の最大要因となっている。NF1患者に発症するMPNSTの多くは、基盤となる叢状神経線維腫(PN)が中間型のANNUBPを経てMPNSTへと悪性化して発症するとされている。ANNUBPの段階で侵襲の少ない手術を実施すれば治癒できるとする報告があるため、適時に的確な病理診断をつけ、適切な手術を実施することがMPNSTへの先制医療につながり、NF1患者の生命予後延伸につながると考えられる。本コンパニオンミーティングでは、NF1患者におけるPN-ANNUBP-MPNSTのステップを病理と臨床の視点から発表、討論し、先制医療につながる理解を深めることを目的とする。

演者

内藤裕 名古屋大学医学部附属病院病理部 18:40-19:10

「PN-ANNUBP-MPNST:病理の立場から」

西田佳弘 名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション科 19:20-19:50

「PN-ANNUBP-MPNST:臨床の立場から」

討論 19:50-20:10